

プシケおおたニュース

2025年8月号 NO.49

社会福祉法人 プシケおおた事務局
〒144-0051 東京都大田区西蒲田 4-4-1
TEL : 03-5700-6352
FAX : 03-5700-6753
E-mail psyche-ota@mbj.nifty.com
HP <http://www.koujiya-center.com/>

◆法人の理念◆

「一人ひとりの”ちから”を信じ、当事者の思いを実現する。」

～私たち（プシケおおた）は、関わる人・機関が持っている力とその可能性を信じ、
当事者の「こうしたい、こうありたい」という思いの実現に向かって行動します～

◆運営方針◆ 職員行動指針；

- ① 当事者中心 ② 自己決定 ③ 権利擁護 ④ 啓発
- ⑤ 協働 ⑥ 創造 ⑦ 研鑽 ⑧ Win-Win



池上 みたま祭り

最近の精神科医療について

プシケおおた元理事 石井 一平

私は50年ほど精神科医として診療を続けてきました。引退しなければいけない程に耄碌をしておりますが、もう少しだけ診療を続けることにしております。

昔の精神科医療がどのようなものであったかも興味深い話題ですが、最近の精神科医療についても知っておくと良いでしょう。私自身も最新の知識を得なければならない「温故知新」の必要が有ります。

厚生労働省などの調査で、精神科医の数は2000年に11,000人程、2006年に12,500人程、2012年12,800人程、2018年に16,000人程（約25%が診療所勤務）となっていて、最近は更に増加していると思います。精神科医の最大の学会は「日本精神神経学会」があり、2025年でのその会員数は20,500人程です（精神科医以外にも会員おります）。

今年6月に私も久しぶりに、神戸で3日間開催された学会に参加しました。そこでの発表演題（約210件）から、最近の精神科医療の状況をご紹介します。以下の【分類・分野別】にしたものは石井が勝手に仕分けしたもので、大凡の傾向を知って頂ければと思います。

【教育関連（12件）、AI、IT、ロボット、SNS（10）、身体疾患（10）、児童思春期（10）、一般（10）、犯罪（9）、精神療法（9）、基礎研究（9）、認知症（8）、検査治療機器（7）、自殺（7）、神経発達症（6）、地域支援（6）、うつ病（6）、薬剤（6）、産業精神保健（5）、依存症（5）、家族関係（5）、高齢者（5）、保健福祉（4）、認知行動療法（4）、統合失調症（4）、てんかん脳波（4）、ジェンダー（3）、災害（3）、虐待（3）、倫理（3）、睡眠（3）、神経症（3）、多職種（3）、急性期・救急（3）、スティグマ（2）、摂食障害（2）、症状評価診断基準（2）、高次脳機能障害（1）、就労支援（1）、SST（1）、PTSD（1）、など】

上記のように、若く経験が浅い専門家に対しての教育の演題は多く有ります。次いで近年のAI（人工知能）、ICTというDXさらにロボット利用などの紹介や注意点などの話題も増えています。癌や幾つかの疾患に関連する精神症状も研究が進んでいます。児童思春期の精神症状・虐待などは喫緊の話題でしょう。関連する神経発達症（発達障害）の発表も多く見られます。基礎研究はこの間に目を見張る進歩で、遺伝子・神経成長発達・細胞内構造機能など、研究者の不断の努力が覗われます。産業（職場の）メンタルヘルスも大きく必要とされる分野で、講演やシンポジウムも多く見られます。虐待や犯罪や自殺に関する話題も引き続きみられます。治療としての薬剤や精神療法以外に、ECTやTMSなどの治療機器、fMRIなどの検査機器の話題も出されています。不眠、うつ病、統合失調症などに対する薬剤効果や副作用等の紹介も続きます。薬剤治療と併行される精神療法や認知行動療法やSSTも人気有ります。また医師の関与では及ばない、多職種支援や地域支援、保健福祉などの状況も紹介されて、今後更に期待されています。精神科倫理、スティグマ、ジェンダーなども検討されています。

専門医ですと、学会などでの講演・講義を受講し一定の単位を得なければならず、学会以外でも学会専門誌などからの知識を得るようにしておりますので、医師にもある程度期待して下さい。

皆様の今後のご活躍を願っております。

参考）日本精神神経学会 <https://www.jspn.or.jp>

日本精神神経学会学術総会 ワークショップのご案内 <https://www.congre.co.jp/jspn121/assets/data/workshop.pdf>

2024 年度 事業報告

こうじや生活支援センター・かまた地域生活支援センター

相談事業及び地域生活支援センターⅠ型事業

登録者		こうじや生活支援センター： 142名					かまた生活支援センター： 218名			
相談事業	基本相談(件)		面接	電話	訪問	同行	専門相談	連絡調整	ケア会議	生活支援
		こうじや	390	2,438	169	95	22	2,840	52	1,377
		かまた	666	2,781	189	58	18	3,875	72	2,559
	指定特定相談	計画相談実数：こうじや 116・かまた 122 計画作成数：こうじや 86・かまた 119 モニタリング件数：こうじや 228・かまた 293								
	指定一般相談	地域移行実数： こうじや 7・かまた 3 地域定着実数： こうじや 8・かまた 1								
オープンスペース		開所日数：こうじや 181日・かまた 198日、利用者数：こうじや 1544人・かまた 3032人、 1日平均利用者数：こうじや8.6人・かまた15.31人								
行事（参加者数）		こうじやセンター祭り（297名）、 こうじやハロウィン（メンバー：7名、地域：26名） 地域交流イベント（メンバー：20、地域：28）								
夕食サービス		休止中								
生活サポート		利用者数：こうじや 28人・かまた 10人、 従業員時間：こうじや1668 分・かまた1214分								
生活支援・ 地域交流プログラム等		生活支援：こうじや1377回・かまた2559回 地域交流プログラム実施回数：こうじや 181回・かまた 152回、 利用者数（延）：こうじや 1228人・かまた861人								
ボランティア		実人数：こうじや 2人・かまた9人、 延人数：こうじや43人・かまた 53人								
実習生受入		PSW実習生：こうじや 2人・かまた 3人、その他(看護・保健師・O T等)：こうじや0人・かまた0人								

<こうじや生活支援センター>

地域活動支援センターⅠ型事業に重点をおいた活動を行ってまいりました。

利用者家族の高齢化、利用者の高齢化も進んでいるので、地域包括支援センターと連携して、家族丸ごとの相談や会議を行う機会が増えました。今後も連携を深める事が必要と感じております。

地域交流活動としては、「福祉のまち萩谷の夏のおまつり」、萩谷地区のウォークラリーイベントへの参加、萩谷中学校での介護体験ボランティアへの参加と、地域や福祉施設等と交流する機会を持ちました。イベント企画においては、メンバーミーティング等で話し合いを重ねて、利用者の好きな事や得意を活かし、プラン・レジンやハンドベルの演奏を子供たちと楽しむことが出来ました。

自然災害の事業継続計画の見直しや、町会の防災訓練に参加し、センター内の防災訓練の時に、伝達研修として周知することができました。

地域の中でつながる事の大切さを感じた1年でした。

地域移行（退院の支援）としては2名の方が地域に戻る為のお手伝いをしました。

<かまた生活支援センター>

2024年度は相談支援事業の件数が昨年より全般的に増加しました。面接、電話相談、訪問件数は年々増加傾向にあり、基本相談と地域活動支援センターⅠ型事業に重点を置きました。

計画相談総数は昨年度より減少していますが、担当者各自が丁寧な支援を行い、サービス提供状況や書類作成などを意識し、確実な請求につなげていきました。地域移行支援は3名実施し、2名の方が退院につながりました。

地域活動支援センターとしては利用者やボランティアさんからの提案により新しいプログラムを増やしていく事が出来ました。その結果来所人数が増加し、プログラム参加者が大幅に増加しました。地域交流イベントも利用者主体で実施でき、地域活動支援センターⅠ型の大事さを感じる事が出来ました。

また自然災害のBCP（業務継続計画）の見直しを行い、蒲田生活支援交流センターの建物合同での避難訓練を実施出来ました。

地域生活安定化支援事業

支援実施者延数	2410人	訪問・面接・同行など	391件	電話相談	322回
関係機関調整	1646件	個別ケア会議など	44件	ショートステイ	延べ58人(124日)

地域生活安定化支援事業は、8月に自立生活援助の担当である常勤職員が退職となりました。自立生活援助担当とはいっても、ショートステイや以前から支援関係を持つ人の地域移行支援も行っていたので、3人で行っていたところを2人で運営することになり、受付、振り返りや利用者の方が帰った後の清掃、ベッドメイクなどの地道な作業に毎週追われることになりました。一方で欠員補充のため法人では求人を絶えず行っていたのですが、応募が少なく、安定化事業は現在も一人欠員のまま運営する状態となっています。それでも特に地域の方のショートステイ利用のご相談も多く、出来る範囲での受け入れを継続しています。

自立生活援助はるまち

新規利用	2名	終了者	11名	年度末利用者	6人
------	----	-----	-----	--------	----

自立生活援助は、8月に常勤職員の退職に伴い他機関に支援の引き継ぎをお願いしました。常勤職員の補充をかけると同時に、法人の他施設の職員3名に自立生活援助の支援を依頼し、それぞれの職員が兼務で支援をしています。緊急時などの対応も兼務の職員間で連携を取りながら行っています。毎月振り返りを行ないながら支援を継続しています。

ホームプシケ

入居者数		28人（3月末）						
2024年度退居者	9名	退居後の状況	アパート単身暮らし	5名	入所施設	1名	他GH	3名
2024年度新規入居者	8名	入居前の状況	入院	6名	家庭	1名	他GH	1名

コロナの収束とともに入居にあたっては比較的空室の解消がスムーズに運びましたが、それぞれの入居者が抱える生活課題は多岐に及び、退居に向けては難航するケースも見られました。また、入居前のアセスメントをきちんと行うべく年度後半には入居前に入院中の病院へ出向きご本人からの話を伺う機会を設けることも進めていきました。

第三者評価を受審しました。良い点として、①遠方の病院からの退院者の受け入れ、②単身生活に向けての地域の支援者との協働、③利用者に寄り添った支援。改善が望まれる点として、①情報共有や業務の効率化を図る、②将来のリスクを回避できる災害訓練の実施、など講評していただきました。

年度途中に職員の退職、休職、産休入りがあり、入居者へ不利益が生じないよう支援体制を整えることに苦慮しました。

新ユニット開設に向けて物件探しを続けてきましたが、法人評議員より好条件のお話をいただき、2025年度中の開設に向けて準備を進めていける体制を構築していきます。

クッキングワーク街の駅

利用登録者数	32	1日平均通所者	9.3	平均年齢	50.3歳	開所日数	241
通所ペース							
週1日…10名、週2日…11名、週3日…8名、週4日…3名							
配食サービス全体	実施日数	233	食数	年間	10,080	1日平均	43.2
昼食弁当		140		年間	7,567	1日平均	54.0
夕食弁当		93		年間	2,513	1日平均	27.0
作業内容	調理・配達・回収・パウンドケーキ作り・ポスティング・洗い物など						

2024年度で事業所開設から12年目、登録者数は32名（新規利用者3名、退所者5名）となりました。天候や気象状況に体調が左右されやすく、昨今の猛暑など天候の不順に影響され調子が安定せず休んでしまう利用者もいて少ない人数で作業を行わなければいけない日もありました。配達・回収・ポスティングなど屋外で行う作業もあるため、天候対策をしながら体調管理等の支援をしっかりと行っていきたいと思います。

配食サービスの注文数は前年度に比べると減ってはいるものの一定の注文数を維持できているので引き続き今の食数を維持できるように宣伝を行っていきます。

パウンドケーキは毎週水曜日に店頭販売を行い、常連客もでき毎回完売できるようになりました。2024年度はお弁当の値上げをすることなく営業できましたが未だに原材料が値上がり続けているため、お弁当の内容・価格変更の検討を行っていく必要があります。

2024 年度 決算報告 (法人全体)

法人単位事業活動計算書
(自) 令和 6 年 4 月 1 日 (至) 令和 7 年 3 月 31 日

(単位: 円)

勘定科目		当年度決算 (A)	前年度決算 (B)	増減 (A) - (B)
サービス活動増減の部	収益			
	就労支援事業収益	5,071,625	5,028,350	43,275
	障害福祉サービス等事業収益	240,893,501	228,622,535	12,270,966
	経常経費寄附金収益	200,000	632,000	△ 432,000
	サービス活動収益計 (1)	246,165,126	234,282,885	11,882,241
	費用			
	人件費	161,859,154	163,504,697	△ 1,645,543
	事業費	6,904,137	6,974,298	△ 70,161
	事務費	51,871,082	50,921,710	949,372
	就労支援事業費用	5,056,996	5,024,793	32,203
サービス活動外増減の部	減価償却費	4,185,424	4,416,167	△ 230,743
	国庫補助金等特別積立金取崩額	△ 3,126,557	△ 3,126,557	0
	サービス活動費用計 (2)	226,750,236	227,715,108	△ 964,872
	サービス活動増減差額 (3) = (1) - (2)	19,414,890	6,567,777	12,847,113
	収益			
	受取利息配当金収益	75,332	1,387	73,945
	その他のサービス活動外収益	721,546	519,088	202,458
	サービス活動外収益計 (4)	796,878	520,475	276,403
	費用			
	サービス活動外費用計 (5)			
	サービス活動外増減差額 (6) = (4) - (5)	796,878	520,475	276,403
経常増減差額 (7) = (3) + (6)		20,211,768	7,088,252	13,123,516
特別増減の部	収益			
	特別収益計 (8)	0	0	0
	費用			
	特別費用計 (9)	0	0	0
特別増減差額 (10) = (8) - (9)		0	0	0
当期活動増減差額 (11) = (7) + (10)		20,211,768	7,088,252	13,123,516
繰越活動増減差額の部	前期繰越活動増減差額 (12)	113,406,320	106,318,068	7,088,252
	当期末繰越活動増減差額 (13) = (11) + (12)	133,618,088	113,406,320	20,211,768
	基本金取崩額 (14)			
	その他の積立金取崩額 (15)			
	その他の積立金積立額 (16)			
次期繰越活動増減差額 (17) = (13) + (14) + (15) - (16)		133,618,088	113,406,320	20,211,768

財 産 目 録

2025年3月31日

I 資産の部		II 負債の部	
1、流動資産	147,105,998	1、流動負債	19,397,107
現金預金	124,475,221	未払金	11,505,425
未収金	22,417,978	預り金	1,481,722
立替金	2,424	賞与引当金	6,409,960
前払金	210,254	2、固定負債	0
仮払金	121		
2、固定資産	33,702,543		
基本財産	10,000,000		
その他の固定資産	23,702,543		
資産合計	180,808,541	負債合計	19,397,107
差 引 純 資 産			161,411,434